

来週の「売り物記事」はこれ



2018年8月31日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

又吉直樹さん初の連載小説「人間」

夕刊（一部地域朝刊） 9月3日（月）～



お笑い芸人で芥川賞作家でもある、又吉直樹さんの連載小説「人間」が、夕刊で始まります（一部地域は朝刊掲載）。

芥川賞受賞作「火花」、「劇場」に次いで3作目の長編で、初めての新聞連載。漫画家を目指した主人公の回想で幕を開けます。

心酔する太宰治の「人間失格」を思わせるタイトル。「重要な作品に」と意気込んでいます。

数学通して更正支える

少年院で教えるベストセラー参考書著者

同2日（日）



数学教育者の高橋一雄さん（57）は、2015年度から新潟少年学院で、高校卒業程度認定試験の合格を目指す少年に数学を教えています。

05年に発刊した学習参考書が18万部を超えるベストセラーになり、業界では知られた存在ですが、少年院での指導はあまり知られていません。

出版依頼を断ってまで、なぜ足しげく少年院に通うのか。その熱意のわけに迫ります。

筆者は東京社会部の飯田憲記者です。



MayWay 私の生き方 作家・探検家、角幡唯介さん

サラダぼうる面 同3日（月）

スーパー経営の両親の下に生まれた角幡さんは早稲田大2年の時、探検部に入部。厳冬期の北海道の山中を1カ月かけて踏破した経験があります。そんな角幡さんも子どもができ、「自分の命よりも子どもの命の方が大事だ」と世界観が180度変わったそうです。

「管理」とは対極にある冒険で社会へのアンチテーゼを表現し続ける角幡さんの、時代を超える「旅」とは。

子どもの自殺の多い新学期 親にできることは

高橋孝雄・慶応大教授に聞く

夕刊特集ワイド 同3日（月）

夏休みが終わり、新学期が始まりました。休み明けは、子どもの自殺が1年で一番多い時期でもあります。

厳しい社会を生きる子どもに、親としてできることは何でしょうか。

小児科医として何万人もの子どもたちに接し、育児をテーマにした本「小児科医のぼくが伝えたい 最高の子育て」を出版する慶応大医学部教授の高橋孝雄さん（61）に尋ねました。

あの球児たちが宮崎に集結 U18 アジア野球選手権

スポーツ面など 同3日(月)～9日(日)

18歳以下の野球アジアナンバーワンを決める「第12回 U18アジア野球選手権大会」が9月3日から9日まで、8カ国・地域が参加して宮崎県で開催されます。日本での開催は2011年の横浜以来3回目で九州では初めてです。

日本代表には東北の快腕、吉田輝星投手(秋田・金足農高)をはじめ、根尾昂選手(大阪桐蔭高)、藤原恭大選手(同)ら今夏の甲子園を沸かせた球児たちが集結。密着取材で熱戦をお伝えします。

論点「障害者雇用の水増し」

オピニオン面 同5日(水)

官公庁を中心に、障害者の法定雇用率が長年にわたって水増しされてきたことが社会問題化しています。先月末、厚生労働省が公表した調査結果では、約8割の中央省庁で「水増し」などが確認されました。

障害者支援の名の下で、偽りの数字がはびこった原因はどこにあるのでしょうか。制度的な問題点も小さくないようです。3人の専門家が課題と改善に向けた道しるべを語ってもらいます。

企画「築地ものがたり」

夕刊 同6日(木)～

「日本の台所」と呼ばれてきた東京都の築地市場(中央区)が10月6日、豊洲(江東区)への移転に伴って83年の歴史に幕を下ろします。

500軒以上の水産仲卸業者が営業し、1日約4万人の買い出し人や運送業者らが入り出る国内最大の中央卸売市場は、施設の老朽化が著しいものの、他の市場では見られない風景があちらこちらに残されています。

築地市場の今を写真と文で記録しながら、閉場までの1カ月、カウントダウンをしていきます。

セカンドステージ・グレーヘアで生きる

くらしナビ面 同9日(日)

白髪を染めない「グレーヘア」が中高年層に広がり始めました。グレーに変わるまで、黒髪に白髪が交じって人目が気になる時期が続きますが、その移行期をどうカバーするか悩む人も多いでしょう。

ヘアスタイルの工夫や美容室での頼み方、便利なグッズを紹介し、メイクやヘアケアのポイントを聞きます。ヘアスタイルのモデルは読者の女性にお願いしました。